防災講話　～阪神・淡路大震災２６年に向けて～

「また明日な」「ほなな～」「明日〇〇持ってきてよ～」「明日の朝、待ち合わせて、一緒に学校行こう！」「おう！」２６年前の１月１６日の夕方や夜、そう言って別れた人がたくさんいたと思います。しかし６千数百人の人にその明日は来ませんでした。私たちは「明日はやってくる」、そう信じて生きています。しかし、そうならない時があるのです。

私がかつて新聞で読んだ、あるお母さんの手記もそうでした。その日、中学１年生の娘さんが夜､「お母さん､今日一緒に寝てもいい？」と聞いてきました。お母さんは「別にいいけど」と思ったのですが、何となく先に出た言葉は､「どうしたん？中学生にもなって｡」でした。その言葉に娘さんは恥ずかしいと思ったのか､「そやな、何言うてんねやろ」と言って１階の自分の部屋に入っていったそうです。お母さんの寝室は２階でした。地震で１階は押しつぶされ、娘さんは亡くなりました。お母さんは今もそのことを悔いています。なぜ「いいよ」って先に言ってやらなかったんだろう？わずかな言葉の順序の違いだけで娘は命を失った。そんな後悔を背負い続けて、このお母さんは生きています。

この話や、昨年２，３年生にお話しした、同じ剣道部員だった友人の死などを思いやるたび、私は命のはかなさに悲しさと怒りを覚える時があります。そして、だからこそ生きていることの素晴らしさと、命あることの大切さを思わずにいられません。

ただ、皆さんが間違ってはいけないことは、何千、何万もの命が失われた震災も悲しいことですが、たった１人の、あなたの命が失われることも、ご家族にとっては同じなのです。どうか自分の命、他人の命の重さをかみしめて、これからも命を大切に生きてください。

最後に皆さんに是非見てもらいたいテレビ番組を紹介します。1月１６日夜、正確には日付が１月１７日にかわったばかりの０時５５分。NHK、Ｅテレで「被災地の新聞記者」が放映されます。震災の日、本社が全壊したにもかかわらず、たった１枚だけの夕刊を発行した地元の神戸新聞社のドキュメンタリーです。現在、震災を直接知らない記者も増える中、新聞社としてどのように震災を語り継ぐかも苦慮しています。昨年の再放送になりますが、是非録画でもして見てください。

それでは阪神・淡路大震災をはじめ、災害で亡くなった方々の御霊に黙祷を捧げます。全員起立。黙祷。黙祷なおれ。座ってください。これで先生からの講話を終わります。

2021,1.15 金